

Rainbow

～六中ユニバーサルデザイン～



調布市立第六中学校
校内通級教室
No.1

早いもので1学期終業式を迎え、明日から夏休みに入ります。

校内通級教室では、調布市Aブロック（六中、三中、五中、七中）の拠点校として学校生活や学習に困難さを感じている生徒に対して一人一人に応じた様々なサポートを行っています。また、今日では、校内通級教室での支援、特別支援は特別な支援を必要としている生徒だけではなく、すべての生徒にとって共通なもの、ユニバーサルなものとなりつつあります。

私たちは、そのような情報を六中のすべてのご家庭とも共有していきたいと、この「Rainbow」を発行することになりました。通級に通う生徒だけではなく、六中生全員と保護者の皆様のお役に立てたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



今回は ADHD について解説します。

そわそわしている、注意力が続かず、落ち着きがない…

…そんな特性をもつ注意欠如・多動症（ADHD）は発達障害の一つです。

学校生活に支障が出てしまうことがあります。どんなサポートが求められるか、考えていきたいと思います。

発達障害とは、生まれつきの行動や思考の特性であり、その特性は「病気」ではなく「個性」や「性格」に近いものです。「注意欠如・多動症（ADHD）」「限局性学習症（LD）」「自閉スペクトラム症（ASD）」などが含まれます。複数のタイプを併せもつ場合もあります。ADHD の人は総人口の5%とされています。

《診断基準》

① A、B それぞれの6項目以上の症状が持続（6か月以上）

A【不注意の症状】

- 勉強中に不注意な間違いをする
- 活動中に注意を持続することが困難
- 話を聞いていないように見える
- 指示に従えず勉強をやり遂げられない
- 課題を順序立てることが困難
- 精神的努力が必要な課題を嫌う
- 必要なものをよくなくす
- 外的な刺激によってすぐ気が散る
- 日々の活動で忘れっぽい

B【多動・衝動性の症状】

- 手足をそわそわ動かす
- 席についてられない
- 不適切な状況で走り回る
- 静かに遊べない
- じっとしていない
- しゃべりすぎる
- 質問が終わる前に答え始める
- 順番を待つことが困難
- 他人を妨害し、邪魔をする

② 学校生活に支障が出ている

① + ② → ADHD の疑いありと診断

「環境調整」「行動療法」「投薬」の三本柱でのサポート

ADHDのような傾向がある、診断とまではいかないが、かなり当てはまる…このような場合には3つの柱で支援が行われます。

「環境調整」➡ADHDの症状が出にくい環境づくりです。(座席を集中しやすい最前列にする等)

「行動療法」➡ほめることを増やし、好ましい行動につなげていく方法です。本人が意識して行っているわけではない問題行動を一方向的に叱っても行動は改善されません。好ましい行動パターンをその都度ほめ、好ましくない行動をしたときは感情的にならずに注意する、を繰り返します。

「服薬」 ➡行動療法や環境改善だけでは改善しにくい症状がある場合は、保護者の希望を聞いて薬が処方される場合もあります。現在、日本では4種類の治療薬があり不注意や多動・衝動性などの症状を緩和する効果が実証されています。

家庭だけでなく、学校、医療機関と連携して自己肯定感を高めるようなサポートをしていくことが必要になってきます。ADHDの特性が強い生徒は、無意識に友達関係のトラブルを招きやすく家庭や学校でも失敗を注意されることが多くなりがちです。それがストレスとなり二次障害につながる恐れがあります。このような二次障害を防ぐためには、周囲の大人がなるべく早くお子さんの状態に気づき、適切な支援につなぐことが大切です。

〈参考文献 岩波明 昭和大学附属烏山病院院長『誤解だらけの発達障害』〉



お子様のことでご心配なこと等ありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。

第六中学校 校内通級教室

主任(特別支援教育コーディネーター) 尾本 保明

□□□□ □□□□ □□□□
□□□□ □□□□ □□□□